

オリ・パラ開催は、世界に向けて千葉の魅力をアピールする絶好の機会となる。開催は不透明になりつつあるが、新型肺炎の早期の終息と大会の開催、そして成功が願われる。

新型コロナウイルス感染拡大の余波が広がるなか、県内では、中国人団体客の渡航制限や政府の基本方針を受けた自粛ムードの高まりで、ホテル客室稼働率の低下やレジャー施設の休館など観光関連業種への影響が目立っている。昨年秋の自然災害からの復興のさなかにある事業者も少なくなく、行政や金融機関には資金繰りをはじめとした経営支援や終息後の観光客の呼び戻しなど、状況に応じた柔軟な支援が必要となる。

2002 年秋から翌年にかけて S A R S が流行した際も、全国（当時は県別統計が未整備）で中国・香港・台湾からの訪日客数が減少（2002 年：162 万人→2003 年：149 万人、▲7.8%）したが、「中国」単独でも、訪日客数が 959 万人（19 年速報）に達した今日、その影響は当時とは比較にならないほど大きい。

県別統計が整備された以降で観光にショックを与えた東日本大震災以降の県内の宿泊者数をみると、2011 年には前年比▲約 2 割減少したが（3 月から 12 月まで前年割れが続いた）、翌年には震災前の水準近くに回復し、以降、増加基調となった（図表 1）。19 年は 2,537 万人泊と震災前の 10 年比約 +4 割増加した。

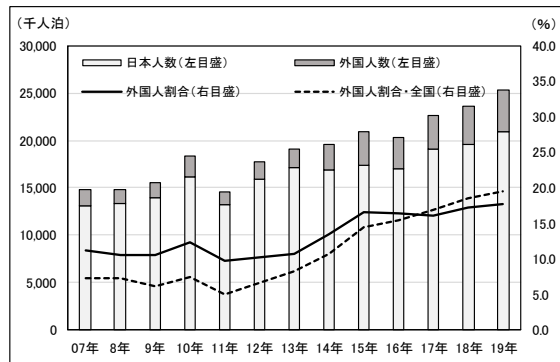
国内客が同 +29.6% 増、外国人客が 2 倍と外国人の増加が目立つが、全体への寄与は国内客が大きい（寄与度：国内客 26.0%、外国人客：12.2%）。国内客の堅調は、コト消費へのシフトが進むなか、TDR の周年イベントの実施や成田空港の L C C 路線の充実化でこれに伴う宿泊ニーズが高まったことなどが考えられる。

一方、訪日客は、アベノミクス以降、国全体で急増するなか、千葉県は恩恵を全て享受しているとは言い難く（図表 2）、17 年以降、外国人割合は全国を下回って推移している（図表 1）。国籍別にみると、中国（39.5%）の多さと韓国（4.2%）・香港（3.1%）の少なさが目立つ（図表 3）。国内では、観光や生産活動における中国依存度の高さが指摘されているが、本県の観光面にもあてはまりそうだ。

当社が県内観光事業者向けに実施したアンケートによると（18 年 6 月、㈱千葉銀行からの受託調査）、今後、ターゲットとしていく国として、台湾やタイ、欧州などが挙げられた（図表 4）。新型肺炎をきっかけに、今後はプロモーションを中国から多国籍化する動きが強まるとみられる。

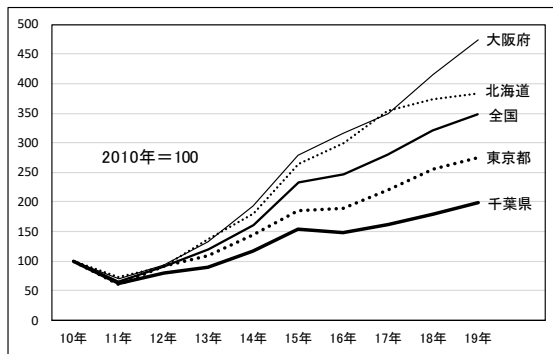
幅広く外国人観光客を呼び込む観点からは、オリ・パラ開催が大きなチャンスとなる。成田空港を擁し、競技開催地でもある千葉県にとって、大会は世界に向けて千葉の魅力をアピールする絶好の機会となる。開催は不透明になりつつあるが（3 月中旬現在）、新型肺炎の早期の終息と大会の開催、そして成功が願われる（下出）。

【図表1】延べ宿泊者数と外国人割合（千葉県）



(出所)観光庁「宿泊旅行統計調査」、図表2、3も同じ

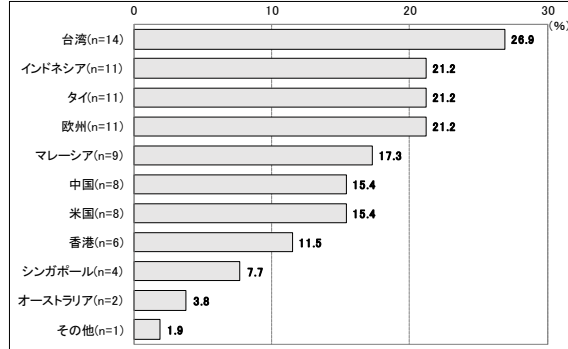
【図表2】外国人延べ宿泊数推移



【図表3】外国人宿泊者の国籍別割合（19年）  
(%、%ポイント)

国籍	全国		千葉県	
	10年比	10年比	10年比	10年比
中国	30.1	12.2	39.5	12.0
台湾	13.8	0.5	12.4	▲0.4
韓国	10.0	▲6.4	4.2	0.3
香港	7.2	▲0.4	3.1	▲0.2
アメリカ	7.1	▲3.8	7.5	▲7.8
欧州	5.1	▲1.8	2.9	▲1.5
タイ	3.8	1.3	6.8	5.2
オーストラリア	3.0	0.2	3.3	0.8
マレーシア	1.4	0.2	1.8	0.4
カナダ	1.1	▲0.1	1.0	0.0
その他	17.4	▲1.9	17.7	▲8.7

【図表4】今後ターゲットとしていく国（観光関連事業者アンケート）



(出所) ㈱千葉銀行「新たな局面を迎える観光立県“ちば”」